1st September 2013

Race Report

Super Taikyu Series 2013

Round 5 Oyakama

一時はクラストップ快走も、最終的には 9 位完走に終わる。

8 月 31～9 月 1 日、2013 スーパー耐久シリーズ第 5 戦が岡山県・岡山国際サーキットで開催されました。#73 mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木・山崎・森組は、悪天候となったこのレースを、ST4 クラスで予選 12 位、決勝クラス 9 位で完走しました。

■レース概要

大会名	スーパー耐久シリーズ第 5 戦　スーパー耐久　in　岡山
日時	2013 年 8 月 31 日（土），9 月 1 日（日）
場所	岡山国際サーキット（岡山県）
入場者数	8 月 31 日（土）3,000 人／9 月 1 日（日）5,500 人

■レース結果概要

車名	#73 号車　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5
ドライバー	A:鈴木　陽　B:山崎　学　C:森　国形
予選	ST4 クラス 12 位（15 台中）
決勝	ST4 クラス 11 位（15 台中）

1st September 2013

レースに向けて

第 5 戦の舞台となるのは岡山県にある岡山国際サーキットです。このサーキットは全長 3.7km と、シリーズでも最も短いサーキットです。比較的ハイスピードな前半区間と、テクニカルな後半区間で構成され、ブレーキへの負担はもてぎに次ぐレベルとなります。

#73 mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5 は、今回の岡山に向け、足回りのセッティングを大幅に変更。今シーズン初の表彰台を目指し、万全の体制で第 5 戦 岡山に挑みました。

8 月 30 日　公式練習　第 1 回

#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

9：00 から開始された公式練習 1 回目。慢性的なアンダーステア解消を目的として、今回は足回りのセッティングを大きく変更しました。最初にステアリングを握った山崎選手は、ピットインを挟み 3 周の計測ラップで 1'48.2 を記録、鈴木選手へと交代します。

交代した鈴木選手は、徐々にペースアップし、3 周目に 1'50.2 を記録しますが、フロントの接地感不足と、ブレーキング時の減速 G の立ちが甘く、ABS 制御も入りやすい症状を訴えピットに戻りました。ピットでタイヤの内圧を確認すると、この時間帯に気温が上昇したことで、内圧が上がり過ぎていたことが原因でした。そして最後の 20 分は森選手が担当。コース慣熟をして 1 回目のセッションを終了しました。

公式練習 1 回目結果

P1　#116　W.S.ENGINEERING+CF 亜衣　吉田靖之/清水康友/杉原直弥
P2　#95　リジカラ S2000　松井猛敏/中島保典/市嶋樹
P3　#86　GAZOO Racing TOYOTA 86　影山正彦/井口卓人/蒲生尚弥
P8　#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

8 月 30 日　公式練習　第 2 回

#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

13：00 より開始された 2 回目のセッションは、途中小雨がパラつきますが、終始 DRY 路面での走行となりました。山崎選手は、足回りのセッティング変更でアンダーステアは弱まり、リヤの動きは良くなったが、絶対的なスピード不足に苦しみ 1'48.5 に留まります。

鈴木選手は、1 回目のフロントの接地感不足が解消され、ペースも上がり 1'49.4 までタイムアップ。最後に走行した森選手も、1'50.1 までタイムアップすることができました。

公式練習 2 回目結果

P1　#86　GAZOO Racing TOYOTA 86　影山正彦/井口卓人/蒲生尚弥
P2　#116　W.S.ENGINEERING+CF 亜衣　吉田靖之/清水康友/杉原直弥
P3　#95　リジカラ S2000　松井猛敏/中島保典/市嶋樹
P8　#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

8 月 30 日　公式練習　第 3 回

#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

15：25 から開始される最後のセッションを前に、雨脚が一気に強まり完全に WET 路面での走行となりました。まずは雨を得意とする山崎選手が順調に周回を重ね、5 周目に 2'01.2 を記録した所でピットイン。WET での走行経験の浅い鈴木選手と森選手に走行時間を多く取ることとしました。

2 番手でコースインした森選手は、滑り易い路面に苦戦しながらも、徐々にペースを掴み、5 周目には 2'02.6 までタイムアップしますが、赤旗中断となり一旦ピットに戻ります。

セッション再開後は鈴木選手が走行。慣れない WET 路面の中、慎重に周回を重ね、4 周目には 2'02.3 までタイムアップ。しかしその後は雨脚が次第に強まり、タイムアップなりません。雨脚が強まった為、今度はコンディション違いでの経験を積むべく、森選手に再び交代し、セッション終了まで周回を重ねました。

公式練習 3 回目結果

P1　#333　オートバックス.GLORY-R.FN2　北川剛/野間一/藤田弘幸
P2　#93　SKR ENGINEERING S2000　浜野彰彦/中村嘉宏/鈴木優
P3　#52　埼玉トヨペット GB with Revo　大井貴之/服部茂章/平沼貴之
P9　#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

1st September 2013

8 月 31 日　公式予選

#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

A ドライバー予選（2 グループ：12:45～13:21）

13：03 から開始された A ドライバー第 2 グループの予選は、開始早々にアクシデントがあり、赤旗中断となります。予選再開後、#73 mountain インテグラの鈴木選手は、#52 埼玉トヨペット 86、#88 村上モータースロードスターに挟まれる形でアタックを開始しますが、アドウッドでギヤが 3 速に入らずアタック中止。その後は#88 村上モータースロードスターの後方でアタックを続けましたが、1 周を上手く纏めきれず、10 周目に記録した 1'47.934 がベストタイムとなり、クラス 12 位で予選を終えました。

P1　#95　リジカラ S2000　松井猛敏
P2　#41　TRACY SPORTS ings S2000　植松忠雄
P3　#86　GAZOO Racing TOYOTA 86　影山正彦
P12　#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽

B ドライバー予選（2 グループ：13:52～14:10）

続いて B ドライバーの予選。山崎選手は、チームメイトである#333 オートバックス FN2 に続いてコースインしますが、アウトラップの時点でリヤの滑り出しが早く、グリップが大きく不足しており、前方の#333 オートバックス FN2 にとてもついていかれる状況ではありませんでした。

ほとんどのコーナーで、ターンインからカウンターを当てながらのアタックとなってしまった山崎選手ですが、バランスの悪いマシンと格闘しながら、3 周目には 1'47.659 を記録します。そして 5 周目には他車に引っかかり、これ以上のタイムアップも困難と判断した為、アタックを中止して早々にピットに戻る決断を下しました。

P1　#95　リジカラ S2000　中島保典
P2　#41　TRACY SPORTS ings S2000　井入宏之
P3　#93　SKR ENGINEERING S2000　中村嘉宏
P11　#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　山崎学

1st September 2013

予選終了後のコメント

鈴木選手コメント

予選再開後の最初のアタックは、#52 埼玉トヨペット 86 に続いてアタックを開始したのですが、アドウッドでギヤが入らずにフイにしてしまいました。その後は#88 村上モータースロードスターの後方でアタックを続けました。#88 村上モータースロードスターとほとんど同じペースで、47 秒フラットを狙えるポテンシャルはあったのですが、ベストタイムをしっかり纏められず、自分の未熟さを痛感しました。

明日の決勝は雨の可能性が高く、経験が少ない私にとっては不安いっぱいですが、FF 勢にとっては有利に働く可能性があるので、着実に上位を目指したいと思います。

山崎選手コメント

前回富士での反省から、公式練習でリヤタイヤの熱入れをして予選に備えていたのですが、結果的にはタイヤの選定ミスもあり、マシンバランスに苦しんだ予選となってしまいました。

グリッドは下位に沈んでしまったのは残念ですが、明日の決勝は雨となりそうなので、アクシデントや小さなミスに注意して、攻めの姿勢で上位を狙いたいと思います。

1st September 2013

９月１日　決勝レース

#73　mountain.VBOXJAPAN.YH.DC5　鈴木陽/山崎学/森国形

朝から降り続いた雨は、一旦上がりましたが、各車がダミーグリッドにつく頃には、再び雨が降り出します。そんな状況の中、13：30 出走台数 49 台がローリングを開始。今回も、恒例となった 2 グループによるスタートの為、GT3,ST1/2/3 クラスの第 1 グループと、ST4/5 クラスの第 2 グループがそれぞれ隊列を整え、スタートを待ちます。

2 周のローリングを終え、まずは第 1 グループが一斉にスタート。特に混乱も無く、クリアなスタートとなります。続けて第 2 グループがスタート。ポールポジションの#95 リジカラ S2000 がイン側、#41TRACY SPORT S2000 がアウト側にポジションを取り、1 コーナーへ進入しますが、#95 リジカラ S2000 が痛恨のスピン。そのままグラベルにはまってしまいます。

12 番グリッドからスタートした#73 mountain インテグラは、トラブルなく順調なスタートをきりますが、レース開始 15 分で一回目のセーフティカーが導入されます。ライバル陣営の多くは、このタイミングでピットに入り、最初のドライバー交代義務を消化しますが、#73 mountain インテグラは、#116 W.S.ENGINEERING S2000、#88 村上モータースロードスターと共にステイアウトを選択します。16 周目にレースが再開されると、#73 mountain インテグラは、#116 W.S.ENGINEERING とのトップ争いを演じ、34 周目についにクラストップに浮上。後方との差を引き離しにかかります。その後も安定したペースで周回を続けた山崎選手は、後方に約 90 秒のマージンを築き、49 周を消化したところで、2 番手の森選手と交代します。タイヤは無交換、燃料補給のみでピットアウトした#73 mountain インテグラは、クラストップでコース復帰に成功しますが、ペースに勝る#88 村上モータースロードスター、#58 小林自動車インテグラにかわされてしまい、クラス 3 位に順位を落とします。

レースは総合トップが 59 周を消化。ここで雨脚が強まってきたために、再び SC が導入されます。#73 mountain インテグラは、すかさず 2 回目のピットインを行い、森選手から鈴木選手へドライバー交代のみでコースに復帰しますが、ピットに入ったタイミングが悪く、隊列に戻った時にはクラス 7 位まで後退。さらに#93 SKR ENGINEERING S2000、#86 GAZOO RACING86、#52 埼玉トヨペット 86 の上位勢が#73 mountain インテグラの直ぐ後方に居るという状況で、ほぼ 1 周のビハインドを負ってしまいます。

1st September 2013

レースは総合トップが 65 周目に入ったところで再開。#73 mountain インテグラは、ペースが上がらず、#116 W.S.ENGINEERING S2000、#48 DIJON インテグラと立て続けに先行され、クラス 7 位から 9 位へとドロップしてしまいます。

そして総合トップが 74 周目、再び SC が導入。78 周目にレースは再開します。SC で二転三転したレースも残り時間は後わずか。鈴木選手がドライブする#73 mountain インテグラは、ダンプ状態となった路面でペースも上がり、5 クラスのマシン達をパスしながら、クラス 8 位の#88 村上モータースロードスターとの差を詰めていきます。しかしゴール間際、3 クラスのマシンに引っかかるという不運もあり、オーバーテイクにまでは至らず、結局クラス 9 位のままフィニッシュとなりました。

mountain
YOKOHAMA
MYCARS www.mycars.co.jp
RACELOGIC VBOX
WATCHMAKER MORI
monocolle Motor Sports
Iwatani
MIX-GT
ACT

1st September 2013

レース後のコメント

鈴木選手コメント

序盤の SC でステイアウトを選択し、山崎選手がレース中盤までクラストップでアドバンテージを築いてくれた所までは良かったですが、2 回目のドライバーチェンジで、順位を落としてしまったが痛かったですね。リスタート後、ハイプレは酷いし、前方 GT3 クラスが巻き上げるウォータースクリーンで視界は遮られるし、ペースが上がりませんでした。結局後方の 2 台を抑えられず、ポジションを落としてしまったのですが、3 回目のリスタート後、#88 村上モータースロードスターより速いペースで差を縮めたのですが、ポジション回復するだけの残り時間はありませんでした。

山崎選手コメント

レース開始早々SC が入りましたが、3 時間という短いレースとはいえ、岡山の雨なら、ピットの義務回数以上の SC が入ることも考えられたので、コース上に残ることを決めました。コースのイン側はラバーで滑りやすく、オーバーテイクは困難でしたが、ミスをしないよう、慎重且つ大胆にレースを進めました。最初の SC が有利に働き、クラストップで 2 番手の森選手にバトンを渡すことができましたが、最終的には 9 位という残念な結果となってしまいました。ただ、この最悪なコンディションの中、無事に完走ができて良かったと思います。

森選手コメント

2 番手を担当しましたが、慣れない WET コンディションで苦戦してしまいました。次の鈴鹿は、是非 DRY コンディションで本領発揮したいです。

大河原監督のコメント

今回もご支援いただき大変ありがとうございました。足回りのセッティングも見直し、良い方向に向かってはいましたが、残念ながら今回も結果には結びつきませんでした。

次戦鈴鹿はホームコースですので、ご支援頂いている皆様のご期待に応えられるよう、チーム一同全力を尽くします。これからも変わらぬご支援の程よろしくお願いいたします。